子供たちのために
―アマメハギを続ける―

番場　政晴

聞き手・河渕理乃　古川真菜（石川県立門前高等学校１年）

今の生活

私、皆月日吉神社の宮司をしております、番場政晴です。年齢は今年 77 になります。皆月には、生まれた時からずっとおります。私の子供は男２人です。現在、私と女房、それから跡継ぎの長男と嫁さんとが一緒に生活しております。次男は、東京の方に行っております。孫は女３人です。

アマメハギの様子
2010 年１月３日　北國新聞　撮れたてニュースより

子供の経験＝良い経験

私の場合、母親が亡くなったのは私が小学校４年生の時で、父親が、私が中学生の時に病気で倒れて、自分で動けんがになった。姉が結婚しておらんかったから、父親の看病を１人でやっとった。父親が動けんから、おんぶしてトイレに連れてったり、それがだんだんできんくなると、床に便をする。おしっこも大便も、全部。それも全部、自分が始末をしました。誰もしてくれるもんがいないもんでね。ほいて、父親が「バナナ食いたい」って言ったら、お金を持ってバナナを買いに行きました。後は、父親にご飯を食べさせたりもしとったわ。そういう父親との生活を大体３年ほどしました。ほいて、父親は私が 21 の時に亡くなりました。でも、子供の時の経験は良い経験をしたぐらいのことしか思いませんでしたね。苦しいっては一つも思わなかったですね。

決意をした時

「宮司さんになろ」思たんは、父親が病気で動けんがになった時ですかね。「やっぱ、早く家へ帰って、家の後を継がにゃいかんな」ということで、腹をくくったわ。やから、高校出たら熱田神宮っちゅう、そういう宮司さんの養成所があったんで、そこへ１年間だけ行った。そこを出て父親が亡くなる前に引き継ぎをして宮司になってん。

「赤い模様をはぐぞ！」

まず、アマメっていうのはね、囲炉裏の火に当たると足にできる、赤い模様のことねん。それは、寒がりでなまくらで勉強せにゃお手伝いの仕事もせん。何もせんと火に当たってばっかおる。するとアマメばっかできる。子供がなまくら者になってアマメばっかできるのは、親としては困る。やから、アマメ様が出て来て、「そのアマメをノミとカナヅチでトントントンして、アマメをはぐぞ、アマメを無くすぞ、そんねしてもいいんか？」という、なまくら者を無くせる行事になっとる。

怖いもんやけど、子供達のために……

アマメ様が正月に、１月２日の晩の日にうちを訪問する。そん時に「アマメ様ござった。餅３つでーとけや」って周りのもんがはやす。アマメ様は「元気に頑張っとるか？」っちゅうことで、１軒１軒のうちを回る。堂々と入って行きますね。どこのうちでも。その時は、家上がって神棚の前へ行く時までは、誰が何を言おうが堂々といばって入って行きますね。後は、子供が家ん中に隠れとったら必ず見つけ出すね。見つけ出してちゃんと脅す。ほして、アマメ様の言うことに対して子供にちゃんと返事してもらうんよ。それは、悪いことに遭わないように、うちの中を平和に、家庭を守る、そういうためにするんや。

それと、なまくら者を無くす。みんな一生懸命に仕事をする。勉強をする。ちゃんとそういう育て方、風習を作るために、「ちゃんと親の言うこと聞くか？　学校の先生の言うこと聞くか？　しっかり勉強すっか？　良いこととわりいことを区別しなさいよ」っちゅう風にして、脅しをかけます。ほしたら、子供が「アマメ様、言うこと聞きます。頑張ります」っちゅうから、アマメ様が「よし。これからちゃんと頑張ってやらにゃ」って頭をさする。ほいて「ありがとうございます」の感謝の気持ちを込めてアマメ様に餅を３つ渡す。そういう行事なんよ。

こういう風に持って音を出す

泣き叫ぶ子供達

子供達は、びっくり仰天で泣きますし「アマメ様の言うこと聞きます」っちゅうて叫びます。中には、アマメ様が来たらみんな一生懸命に家ん中を走って行って、押し入れやトイレに隠れたり、家から出て他の家へ逃げてくもんもおりました。アマメハギは子供がちゃんと「言うこと聞きます。頑張ります」っちゅう返事をするまでアマメ様が子供を脅すのが特徴になるんやと思う。でも、アマメハギはわりいことを目標してやるんじゃ無く、良いことを目標にしてやる。脅すだけの行事やって見えるかもしれんけども、なんでもかんでも脅しとるように見えるかもしらんけども、ほんとは脅かしながら、なまくらな子供は駄目だよ、勉強もせんとって遊んで歩くような子供じゃあ駄目だよっちゅうことを子供に聞かせとる。ちゃんと子供に言うことを聞かせるのが目的ということですね。アマメハギは子供達に「健康に頑張れよ。勉強もちゃんとしなさいよ。親の言うことも聞きなさい」っちゅう日常一番大切にしとるね、子供が一番覚えなあかん、そういう言葉を色々面様が言うとるんよ。

特別な思い出

私自身、一つだけとても印象に残ったものがありますね。それは、和倉温泉の方から「和倉温泉で頼む、してもらえんか」って言われたんですよ。それで和倉温泉加賀屋へ行きましたね。ほいで、アマメハギの正月の日に、アマメ様の格好をして各部屋を回りました。わあわあ騒いで楽しくやりまし

（上）上：猿面　左右：ガチャ面
（左）左から：カナヅチ・ノミ・カナヅチ・セリコギ
（右上）お餅を入れるための袋
（右下）猿面様がお祓いをするために持つ

たよ。それがいい思い出ですね。そういう一つの余興としてアマメハギをして、みんなを脅かしましたね。

面の種類

アマメハギは４人で回ります。各家々のお祓いをする天狗様、「ア」と「ウ」の口をした雄雌一対のガチャ面様、皆月日吉神社の使いの猿面様がおります。家庭の子供達がちゃんと育つように教えるのがアマメ様の役目なんですよ。

道具の意味

天狗様は、お祓いをするので神主さんの格好をします。ガチャ面様と猿面様は、もんぺ履いて、法被みたいなもんを着ますね。ほれから、ノミとか、カナヅチ、スリコギとか、子供を脅す為の道具を持って歩いとるね。スリコギは、すりおろす道具でね。食器の道具。まめに仕事をしなさいよ、細かい作業もきちんとしなさいよ、っちゅうことでスリコギは持っとるの。あと、猿面様はお供えしてあった餅を集めながら回る。やから、猿面様は餅入れる為の袋を持っとるげん。

「アマメ様ござった。餅３つでーとけや」

アマメ様がうちを訪問する時に周りのもんがはやす「アマメ様ござった。餅３つでーとけや」っていう歌の意味は「アマメ様ござった」は、アマメ様が来て下さいましたということでね。「餅３つでーとけや」っちゅうのは、お供えしたったお餅３つをアマメ様に差しだすんやぞっちゅうことを言っとるんよ。何でお餅が３つかというのはね、天狗様と、雄と雌のガチャ面様の３人分のお餅やからやよ。

ずっと続いたアマメハギ

これは、書いたもんで残る行事じゃないもんですからね。300 年前も 500 年前もあったんですよ。詳しいことは分からんね。

アマメハギといったこういう行事は、海岸線上に沿って九州から北海道まであったんよ。それもだんだん無くなっていったわ。秋田県の「なまはげ」とかもやり方はちごうけど、アマメハギとほとんど同じ意味なんですよね。

自分がおうた経験を次に……

アマメハギっちゅうのは誰にも習わないでやるんです。みんな子供の時におうたアマメハギの経験を、次は自分でお面をかぶってやるわけです。こんねすれば、怖い、っちゅうがも、分かっとりますからね。だから、アマメハギは体で覚えたまんまでやっております。どんなもんだっていうのは、体で覚えている。本質だけはみんなきちんと、アマメハギすっ時にそういう話はする。ちゃんと本質的な物だけは話繋いでおりますから。表現の仕方っていうのは多少違うかもしらんけども、同じことを言うとる。

時代とともに

多少ぐらい変化しますね。大きさぐらい。スリコギでも小さい物を大きい物に替えて持って歩いたり。ノミも前はほんとの物を持って歩いたがですけども、子供がケガすると危ないもんで、それに近いもんをこしらえて音だけ聞こえるようにして横向けて鳴らす。そういう風にしてやっております。その時代その時代に合うようにしてやっとる。

それと最近は、じいちゃんばあちゃん１人しかおらんという家庭がおおなった。だから、そういう所に行けばアマメ様の脅しを別にして、ほして「家のお祓いをしますよ」っちゅう形で今はやっております。やっぱ家庭によってね、迷惑にならないようにしないといけないし……。

それと、昔はアマメ様をやる人は成人になった人か、42の厄年の人らが厄を除けるために面をかぶっていたんですよ。それが、面をかぶる人がだんだんおらんがになったから、一時的にもうする人がおらんがになったので、はや年齢はともかく、皆月青年会っていう地元の青年会の人らちに「やってもらえんか？」ということで話をしたら、青年会の人らが「やりましょう」っちゅうことで、今現在までそういう形で続いております。昔はそういうことしませんでしたけども。でも、特別な形の変化は無いんですわ。持たにゃならんもんその物は、変わらないですね。

重要無形文化財

アマメハギが習慣的にやっていたことが、重要無形民俗文化財に登録されてありがたいことだとは思います。だけど、そうなるとこれをいつまで繋いで続けていかれるかなというのは、一番心配になります。子供がいなくなるとね、やりにくくなるし。それにもし、このアマメハギっちゅう行事が無くなってしまったら、ほんでもう、将来復活しようと思ってもおそらく復活できないと思います。

これから先のアマメハギ

人数は今んとこはまだ何とか足りてます。ほかへ行っとる人達も、正月の夜に地元へ帰ってきて、地元のじいちゃんばあちゃんらと一緒に生活をするという家庭の風習がまだ残っておりますのでね。正月なら皆さん帰っておられるので。だから、アマメハギの行事を昔の年越しで６日の晩にしとったんですよ。それを今、正月の２日の晩にすることに日にちを変えてやっとります。正月、他行っとる人も帰ってくる、そういう家庭もあります。それが楽しみでくる人もおるし、嫌がっとる方もおる。できるだけ楽しく残すようにしたいなとは思ってます。

でも、これから先は心配ですね。脅される子供がいなくなると、多分アマメ様はまず無くなって、しようと思っても面様になる人もおるかどうか、ということなると思いますわ。はや、じいちゃんばあちゃんになってから、面かぶって子供いない所を回るわけにいかんし。子供が面かぶるわけにいかんしね。

後を継いでいかにゃならんなっていう思いはあるんやけども、人がおらんさけにね。どうしようもならんわ。こればっかしは。そうなれば、部落としての活動も無くなるし、おそらくそれで部落も終わりやわね。まあ、そんねならんように何とかやりたいね。

願い　～残していく為にも～

アマメハギは後世に残していきたいですね。アマメハギを残していくためにも、まず皆さんに正月に地元に帰ってきて欲しいしね。子供がほんとにおらんがになって、歩く人もだんだんおらんがになったというかっこうになれば、自然消滅になるね。そうならんためにも何とかして帰ってきて欲しい。

名人にとってのアマメハギとは……

やっぱりね、正しい道を歩く。人としての正しい道を歩くがの礎になれば、と思います。「ああ、わりいことすれば駄目やっちゅう言われたな」っちゅうことに参考になればと思います。正しい道を歩くということは大切だからね。ルールを勉強せえとか、親の言うことを聞くとか、そういう考え方を子供のうちに持ってもらいたいと思うね。

子供達に一番にして欲しいこと

子供達には、一生懸命勉強するようになればいいな、ちゃんと親の言うことといて、うちのお手伝いをして、父ちゃん母ちゃんにきちんと奉仕できるようになればいいなと思います。後は、自分の道を自分の行きたい道を、ちゃんと知らないかんなと思いますね。「こういう所に行きたいな」というのを自分で想像して、頭に置いてどうすればいいのかということを考えながらいって欲しいですね。それは、その人その人に違いが出てくると思うけど、別に、それがまちごうとるっちゅうことは絶対無いわけや。さやけ、ちゃんとした自分の生きる道を行くための気持ちを持って欲しいと思いますね。［取材日：2014年8月8日・10月18日］

PROFILE

番場　政晴 ばんば　まさはる

昭和12年10月22日・77歳
皆月日吉神社　宮司

高校卒業後、昭和34年3月より皆月日吉神社の宮司に就任。皆月・五十洲のアマメハギ行事の継続に尽力した。その後、門前町アマメハギ保存会の会長に就任して現在に至る。

● 取材を終えての感想 ●

今回、能登の里山里海の聞き書きに参加することによりいつもは絶対できないような貴重な経験ができてとても嬉しかったです。特に、番場さんにインタビューできたのが一番印象に残っています。番場さんは、とても優しくて、詳しく話を聞かせていただきました。アマメハギのことを聞いてもっと知りたいと思ったし、番場さんのことももっと知りたいと思いました。アマメハギの話を聞くにつれて一度体験してみたいとも思いました。どんな様子なのか、その場の雰囲気を直接感じ取りたいと思いました。機会があれば、今年は忙しいから無理だけど、来年あたりに行ってみようと思いました。番場さんには、貴重なお話を聞かせていただいてとても感謝しています。（河渕理乃　写真：右）

今回、聞き書き研修から始まり、実際に名人にインタビューをして、それを書き起こし、最後には、皆が読めるように文章にして、と今までに無い体験をすることができて、とても嬉しいです。書き起こしをして、それを小見出しをつけて文章にするのが、一番しんどかったし、一番時間がかかりました。でも、その原稿ができた時の達成感、やりがいはすごくありました。このような貴重な経験を今後に活かしていきたいなと思いました。また、アマメハギのこと、名人自身のこと、たくさんの話を深く掘り下げて聞くことができました。アマメハギにすごく興味が湧いたし、是非1回直接行ってみたいなと思いました。お話しして下さった、名人の番場政晴さん、たくさんのサポートをして下さった、研修のスタッフの皆さん、ありがとうございました。（古川真菜　写真：左）